

はじめに

平成 20 年 3 月、新しい小・中学校学習指導要領が告示され、小学校では来年度から、中学校では平成 24 年度から全面実施となります。

新しい学習指導要領では、改正教育基本法等で示された教育の基本理念を踏まえ、現在の子どものための課題から、思考力・判断力・表現力等の育成、学習意欲の向上や学習習慣の確立、豊かな心や健やかな体の育成が重要であるとしています。また、子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、各教科等における言語活動の充実を各教科等を貫く重要な改善の視点として示しています。

本県では、児童生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、各学校が、本調査から明らかになった課題に基づいて指導改善を推進することを大きな目的として、平成 14 年度から本調査を実施しており、今年度で 9 年目を迎えました。

本年度の調査結果から、全ての教科において、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられますが、思考力・表現力に関する内容については、少しずつ改善されてはいるものの通過率が低い傾向にあり、継続的な課題となっています。

これらの課題を解決するため、『『ひろしま』学びのサイクル』の定着を一層進めるとともに、特に、中学校においては、昨年度から「中学校学力向上対策事業」を実施し、国語、数学、英語において、複数の教科担当者がチームを組んで、指導改善を進めるよう取り組んでいるところです。

本報告書では、昨年度同様の分析・考察に加え、指導改善の参考となるよう、学習習慣における状況を取り上げるとともに、「中学校学力向上対策事業」における指定校の状況についても掲載しています。

また、平成 21 年度「基礎・基本」定着状況調査と平成 22 年度全国学力・学習状況調査の関係分析では、抽出校において、状況が改善された学校の指導方法や指導内容を示しています。

さらに、指導改善のための事例として、昨年度の課題を改善した学校の具体的な指導内容・方法や、組織的な研究推進により、成果を上げた学校の取組を教科ごとに掲載しています。

各学校においては、調査の趣旨を踏まえ、この報告書を参考にして、児童生徒一人一人の分析・考察を行い、学校全体として組織的な取組を進めていくことが大切です。

最後に、この調査の実施、分析、報告書作成に御尽力いただきました関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

平成 22 年 12 月